

進学受験の流れ

・ 学校研究・資料収集

自分が学びたいことは何なのか、将来の就きたい職種は、などから、進学したい学校種や分野、学部などを絞り込んでいく。

・ オープンキャンパスへ

絞り込んだ学校を、実際に自分の目で見学する。きっと、学校選びの参考になるよ。

・ 入試の研究

希望する学校によっては、複数の入学試験の方法がある。自分がどのような入学試験が合っているのか、そのための準備はどうしたらいいのかしっかり考える。

・ 模擬試験の受験

進学を希望する学校（特に四年制大学と看護系専門学校）によっては、模擬試験を計画的に受験し、自分の実力を確認するとともに、受験する入学試験の種類（推薦？一般試験？）の決定の参考とする。



・ 進学受験することを決めたら・・・

○（推薦を希望する場合）進学推薦願の提出

指定校推薦や学校推薦型入試を受験したい場合、学校長に推薦していただくために、「進学推薦願」を記入し、担任に提出する。

※学校によっては、全日制・定時制・通信制の別を指定しない指定校推薦（学校枠）の場合もあるので、この場合は、担任や進路支援担当に早めに申し出る。

○進学受験届の提出

- ・ 学校長の推薦が決定した場合
- ・ 推薦入試以外の入試の受験を希望する場合

「進学受験届」を記入し、担任に提出する。この届は、進学調査書のほか推薦状など出願に必要な書類の作成を依頼することを兼ねる。進学調査書は申請してから発行まで1週間以上かかる場合もあります。早めに「進学受験届」を提出してください。

また、大学入学共通テストを受験する場合は、担任までそのことを報告してください。



・ 出願書類送付

出願の準備ができたなら本人が簡易書留で郵送する。

・ 受験のために

面接試験がある場合、面接の練習をしておく

・ 受験を終えたら

受験報告書はある？

・ 合否が分かったら

担任に合否の結果を報告する。また、併願の場合、「入学するか、しないか」も伝える。

I 進学をめざして～1年生から計画的な学習の継続を～

上級学校の学力試験は、1年生から4年生までの4年間で学んだすべての範囲から出題されます。また、通信制のスクーリング内容では上級学校を受けるのに不足している部分が少なからずあります。そのため、上級学校に進む意志があるならば、早くに意志決定する必要があります。その上で必要な科目の個別指導をお願いし、外部模試を受験することも大切です。3年生や4年生になってから勉強を始めたのでは間に合いません。国語・数学・英語といった積み重ねを必要とする教科は、半年間余りで実力を飛躍的に伸ばすことは極めて難しいのです。

さらに、学校推薦型選抜の可否も1年生から4年生までの総合成績で決まります。どちらにしても、4年間の地道な学習が必要です。1年～3年においては特定の科目に偏らず、どの科目もまんべんなく学習しておきましょう。また、次の3つのポイントをしっかり押さえましょう。

- ①スクーリングへの積極的な出席 ②家庭学習の習慣化 ③進路の目標を持つ

II 課外活動の記録～「学習の履歴」の活用～

いま、社会では課題を発見する力や、学び続ける力、他者と協力して課題を解決していく力が求められています。そのため、特に学校推薦型選抜や総合型選抜では、「テストで測られる学力以外に、どんな『主体的な学び』をしてきたのかを評価する」ため、高校生活の学習活動や課外活動の記録が選抜基準の一部として利用されます。「課外活動」には「探究活動」「生徒会・委員会」「学校行事」「部活動」「学校以外の活動」「留学・海外研修」「表彰・顕彰」「資格・検定」の8項目があります。活動記録や取得した資格、研究発表の内容などについて書面での提出や、面接でのプレゼンテーションを求められることもあります。そのため、あなたが高校で何を目的にどんなことを学び、そこにどのような気づきがあり、次にどう活かそうと考えたか、積極的に高校生活を過ごし、記録として残す必要があります。自分の高校生活の記録をキャリアパスポートにしっかり記入し、活用してください。

III 志望校の決定

志望校はできるだけ早い時期に決定したほうがよいです。どんなに遅くとも卒業年次の第1学習期限が終了する頃までには決定しておくのが好ましいです。志望校の決定は、何よりもまず自分が将来、どのような方向に進み、どのような職業を選択するのか、ということについて十分に考えることからスタートします。そしてそれを踏まえて「専攻→学科→学部→大学・短大・専門学校」という順序で、志望校を決定するのが理想です。

学力試験で受験しようとする人は、受験に必要な教科・科目を調べた上で、特に学力をつけなければなりません。実際のところ、受験対策として通信制のスクーリングやレポートの提出だけでは充分とは言えません。早めに担任の先生などに相談して個別学習を受けるなどの特別な対策をとる必要があります。厳しい受験競争に打ち勝つためには、志望校をよく調べ、担任や教科担任の先生、ならびに進路担当の先生にも相談して情報を収集してください。

地元で実施される進路相談会や説明会等で学校の資料を入手したり、担当者の方から説明を聞く機会を増やしたり、オープンキャンパスに積極的に参加（最低3校は見学して比較しよう）したり、色々な方法で情報を入手し、自分の目で確かめた上で志望校を決めてください。また、学費や生活費・奨学金等もしっかり調べてください。

Ⅳ 入試方法（学校により異なるため、各自しっかり確認すること）

1. 専門学校

専門学校は職業に直結した学校なので、自分の職業志向を明確にし、事前にできるだけ複数の学校の内容を比較し、取得可能な資格などを入念に調べた上で決定する必要があります。入試は看護医療専門学校を除いて、推薦制度が多くなっています。

（1）専門学校の主な分野

- ①情報系、電子系、通信系、建築系、土木系、自動車整備系
- ②理容系、美容系
- ③食物・栄養系、調理・製菓系
- ④教育系、福祉系、体育・スポーツ系、健康系
- ⑤会計・経理・各種ビジネス系
- ⑥国際・語学・観光系
- ⑦ファッション・アパレル系、被服系
- ⑧デザイン・写真系、放送・映像系
- ⑨環境・農業・動物・トリマー系、バイオ系、造園・フラワー系
- ⑩看護・医療系

（2）学校選択のポイント

- ①「仕事」と直結した教育機関ととらえ、十分に考えて慎重に選ぶ。
- ②専門学校・各種学校・無認可校か、専門士の認定を受けられる学科か。
- ③希望校の資格取得状況や就職状況（求人数と就職内定率）はどうか。
- ④1クラスは何人制か。
- ⑤週間、年間のカリキュラムと授業時間数はどうか。
- ⑥設備・実習の充実度と学習体制は整っているか。
- ⑦中退率はどうか。
- ⑧必要経費（受験経費、入学金、授業料、実習費など）はいくらか。
- ⑨オープンキャンパス等を利用して、保護者と複数の学校を見学する。

2. 短期大学

（1）私立短期大学

募集定員の半数近くを推薦で確保します。一般選抜は大学との併願者が多い。短期大学には夜間部または3部を併設しているところもあり、修業年限は2年または3年となっています。

（2）国公立短期大学

国公立大学より推薦枠が広く、一般選抜は受験科目数が少なくなっています。多くの学校は大学入試共通テストを課しません。

短大で【取得できる資格◎】【受験資格が与えられる△】の一例

資 格	主 な 学 科
幼稚園教諭二種 ◎	幼児教育科・保育科・初等教育科・児童教育科
栄養士 ◎	食物栄養科・生活科学科・家政科
介護福祉士 ◎	介護福祉科
看護師 △	看護科（修業年数3年）
理学療法士 △	リハビリテーション科（修業年数3年）

3. 大学の入試方法

(1) 私立大学

- ①一般選抜は1月末から3月にかけて大学ごとに行われます。大学によってはⅡ期募集やⅢ期募集を行って受験チャンスを広げているところもあります。
- ②大学入試共通テストを利用する私立大が全私大の約8割に達し、3科目型が主流となっています。ただし、募集人員は少なめに押さえています。
- ③11月から始まる学校推薦型選抜は、国公立大学に比べて、多くの定員を確保するので、受験者が多くなっています。

(2) 国公立大学

- ①基本的に、1月に実施される「大学入試共通テスト」とその後に各大学が独自に実施する「2次試験（前期日程・後期日程）」との総合判定で合否が決定されます。
- ②例外的に大学入試共通テストを課さない学校推薦型選抜（成績優秀者・上級資格取得者等）、または大学入試共通テストと面接等による学校推薦型選抜があります。

4. その他の修学制度（働きながら大学等へ通う制度）

(1) 2部制

時間的または距離的に通学可能な企業に就職し、夜間の大学等へ通うという制度です。一般に夜間部と言われ、就業年限は大学の場合は4年、短大、専門学校の場合は3年のところが多くなっています。

(2) 3部制

短期大学や専門学校が企業と提携してできた制度で、「午前に学校・午後に仕事」「午前に仕事・午後に学校」という組み合わせが交替に繰り返される制度です。

(3) 通信教育

講座ごとに課題をレポートにまとめて大学に送り、指導の先生が添削・批評・採点をして、単位を認定するという一連の流れを、通信によって行います。実験・実技等についてはスクーリングという面接授業を受けます。

V 入試制度と留意点

1. 総合型選抜

ペーパーテストでは測れない学力や能力、つまり、問題を発見する力・解決能力・適性・意欲などを重視する入試です。実施方法は学校毎に異なりますが、夏休み前後にエントリーし、面談は夏から秋にかけて行い、出願は10月、最終の面接および合格発表は11月というのが一般的です。

2. 学校推薦型選抜

(1) 指定校推薦

受け入れ側の上級学校が過去に入学実績がある特定の高等学校に対してだけ、推薦入学者を募集する制度です。推薦基準を満たし、校内選考を通過した場合に限り出願することができます。

指定校推薦は専願で、私立学校だけが実施します。専願とは、「第1志望として志願し、合格すれば必ず入学」するということです。指定校の有無、推薦基準や推薦人数などは、担任の先生か進路担当の先生に尋ねること。

(2) 公募制推薦

①一般公募制推薦

学業成績（評定平均値）など、推薦条件を満たしている者であれば、学校長の推薦を受けて応募でき、また併願可能な学校に限り複数受験することができます。（国公立学校は専願のみ）〔併願＝合格者の入学辞退を前提とした方式〕

②特別推薦

志望校が独自に定める推薦基準を満たしていれば出願できる入試制度で、主な推薦要件は次の通りです。

ア 資格推薦（英検・TOEIC・簿記・情報処理技術者・測量士補等）

イ スポーツ推薦（全国または県大会上位入賞等）

ウ 文化・芸術推薦（コンクールやコンテストや展覧会で県大会以上のレベル）

エ 課外活動推薦（生徒会等、特別活動に顕著な活動がある）

オ 学外活動推薦（ボランティア、地域活動での実績等）

カ 学業成績推薦（特定科目の優秀者や奨学金を給付する奨学生・特待生推薦）

キ 一芸一能（何らかの分野でめざましい実績がある。自己推薦の形で実施）

3. 一般選抜

1月下旬から3月上旬にかけて、各学校で実施されます。各学校独自に入試科目や配点比率などが決められています。事前によく調べておく必要があります。

	総合型選抜	学校推薦型選抜	一般選抜
出願資格	基本的には出願自由。 一部で成績を指定。	学校長の推薦必須。 成績・資格などの条件あり。	自由に出願できる。
試験内容	数回にわたる面接などで意欲・適性などを中心に評価。	書類審査・面接・小論文・実技など。	学力試験中心。 大学は大学入試共通テスト・個別試験を課す。
実施期間	エントリー開始は夏休み頃。選考は長期に渡る。	大 学：11月出願 専門学校：10月出願※	1月～2月

※上記の実施時期は、標準的なものです。9月に出願の学校もあるので、自分の志望校について早めに情報を収集して、着実に準備を進めてください。

4. 大学入学共通テスト

- (1) 共通テストの平均点は例年6割前後で、難関大学合格には8割近い得点が求められます。志望校の過去の合格最低点や合格者平均点を参考に目標設定することが効果的です。英語・国語・数学は主要教科として重視されますが、配点は科目や大学によって異なります。

※合格最低点とは、可否のボーダーラインになる得点のことです。国公立大学では、共通テストと2次試験の合計点で可否が決まるため、最低点はその合計で示されます。ただし、大学や学部ごとに配点や満点が異なるため、同じ得点でも難易度は異なります。合格を確実にするには、最低点ではなく合格者平均点（合格者全体の平均点）を目指すのが望ましいです。この合格者平均点は、合格最低点よりも得点率で5～10ポイント（＝パーセント）高いのが一般的です。

- (2) 各学校で実施される2次試験と合わせての総合成績で可否が決まります。

- (3) 各大学によって、大学入試共通テストの各科目の得点配分比率は異なります。

- (4) 令和8年度試験から、出願手続きは大学入学共通テストの出願サイト上で行う形式となり、原則郵送による出願手続きは行うことができません。

また、高等学校に在籍している者も含め、全ての志願者が個人で出願する必要があります。

VI 総合型選抜の対策

本校からの進学は総合型選抜を利用する生徒が多いです。総合型選抜はほとんどの学校において志望理由書と面接試験で受験できます。意欲ややる気を見てもらえる、成績だけで志望大学を決めなくてよい、大学の先生と直接話して理解を深めることができるなどのメリットがあります。一方で、エントリーから受験終了まで時間が掛かる場合が多く、緊張感を持ち続ける必要があることや、学習をきちんとしないと学力が低下し、大学の授業についていけないといった厳しい面もあります。

1. 志望理由書の重要性

総合型選抜で問われるのは、受験生がその大学のアドミッションポリシーにふさわしいかどうかという点です。大学や学部が求める人物であることをアピールし、入学後または将来、自分が何をしたいのか、そのためにその学校・学部でやりたいのはどんなことなのかを明確に記した「志望理由書」が合否を左右する大きな判断材料となります。裏を返せば、志望理由がはっきりしていないと合格が難しいということです。「志望理由書」を書く際には、入学案内や大学のウェブサイトを見たり、オープンキャンパスに参加したりするなどして、アドミッションポリシーをしっかりと理解することが重要です。また、A4用紙に志望理由を書ききる力が必要となります。

2. 面談・面接試験の対策

学校側は受験者と直接面談し、受験者の人間性や個性、また、希望する分野に関する知識の有無などを総合判定の有力な資料とします。学校側の面接でのチェックポイントは、志望動機や入学の決意、学部・学科への適性、高校生活全般、基礎学力（口頭試問）、言葉遣いや態度などです。特に重要視されるのは、志望動機やその分野への興味・関心・意欲・適性などです。提出した「志望理由書」を参考に質問されることもあるため、内容に矛盾が出ないように注意する必要があります。

面接で緊張しすぎて自分の力を発揮できないということがないように、また、自分の考えを自分の言葉で言えるように十分な準備と練習が必要です。さらに、専門知識を問われる質問もあり、興味ある分野の内容を早めに勉強しておくことも必要です。

3. 小論文の出題傾向

小論文試験の目的は、基礎的な学力をチェックするためですが、同時に入学後の成長の可能性や適性の有無を審査するためのものでもあります。小論文試験の出題形式は、大きく次の3つに分けられます。

(1) 課題（テーマ）型記述式小論文

ある課題が与えられて、それについて論述するもので私立大学の小論文に多い。

(2) 文章（または資料）読解型論述式小論文

文章や資料（文献・グラフ・図表・写真など）が与えられて、その読み取りのもとに論述するもので、文章は英文の場合もある。国公立大学の小論文に多い。

(3) 学力検査型小論文

小論文という名称ではあるが、実際は、特定教科(国語・数学・理科等)の学力を測るものとなっている。一部の国公立大学の学校推薦型選抜に出題されている。

4. 小論文の対策

出題形式や試験時間・制限字数などは毎年ほぼ同じ傾向なので、前もって必ず調べ、形式に慣れておく必要があります。また、新聞の社説やコラムなどからの出題が多いので、新聞に毎日目を通したり要約する訓練をしたりしましょう。設問形式は「～についてあなたの意見を述べよ」「～についてあなたの考えを説明せよ」という論述を求めるものがほとんどです。自分の考えや意見をきちんと論述・説明できるように、事前に訓練しておく必要があります。

Ⅶ 進学に関する費用・奨学金など

1. 学費の初年度納付金（昼間部：国立大は標準額、国立大以外は平均額）

	授業料（年間）	入学金	施設設備費	実習費など	総 計
国 立 大	535,800	282,000	0	0	817,800
私立大(文系)	746,123	242,579	158,118	79,036	1,225,855
私立大(理系)	1,048,763	262,436	190,034	139,147	1,640,380
私 立 短 大	693,495	245,783	173,825	147,893	1,260,996
専 門 学 校	688,000	177,000	184,000	169,000	1,218,000

※「マネープランシート(p15)」を活用し、進学に必要な金額を調べよう！

2. ひとり暮らし学生の1か月の生活費.....平均12万円

食費・住居費・光熱水費・通信費・教養娯楽費など

（自宅生 58,000円／寮生 94,000円）

3. 受験にかかる費用.....約6～7万円（受験料、宿泊交通費など）

4. ひとり暮らしを始めるまでにかかる費用.....平均50万円

賃貸契約のための費用、家具・生活用品購入費用、引越費用など

Ⅷ 評定（学業成績）について

（1）高校4年間の学業成績の目安となる**評定段階**及び**評定平均値**は進路選択や進路決定時の重要なポイントになります。

（2）「評定平均値」は「全体の評定平均値」であり、すべての教科・科目の評定を合計した数を科目数で割り、小数第2位を四捨五入した値です。

（3）**評定段階と評定平均値**は次の通りです。

評定段階	A	B	C	D	E
評定平均値	4.3 ～5.0	3.5 ～4.2	2.7 ～3.4	1.9 ～2.6	1.8以下

※指定校推薦・一般推薦（専願）の出願校が評定の推薦基準を指定していない場合は、推薦時の評定平均値が、3.2以上（前籍校がある場合は、前籍校の評定も含む）必要になります。

進路指導のきまり（通信制）

1. 進学について

【指定校推薦・一般推薦（専願）】

- ・ 出願先が求める条件を満たしていること。
- ・ 基準が書かれていない学校に出す場合は、以下をすべて満たすこと：
 - － 評定平均 3.2 以上（前の学校も含む）
 - － 欠席が「在籍年×2 日以内」
 - － レポートはすべて期限内に提出
- ・ 希望者が推薦人数以内なら担任で相談して決定。
- ・ 希望者が多い場合は、成績や活動、生活の様子を見て決める。
- ・ 合格したら、特別な理由がない限り辞退できません。

【全定通の縛りのない指定校推薦の場合】

- ・ 通信制のきまりでなく、全定通共通の基準で選考されます。
- ・ 模試（共通テスト模試・看護模試など）を受ける必要あり。
- ・ 進学先が全日制の内容に近い場合、全日制が優先されることがあります。

【一般推薦（専願でないもの）】

- ・ 出願条件を満たしていること。
- ・ 成績や活動、生活の様子などをもとに推薦を決定。